



平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月10日

上場会社名 愛眼株式会社
 コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 下條 三千夫
 (氏名) 佐々 昌俊
 TEL 06-6772-3383

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	4,149	1.4	93		110		80	
29年3月期第1四半期	4,090	3.1	83		63		97	

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 110百万円 (%) 29年3月期第1四半期 173百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	4.14	
29年3月期第1四半期	5.00	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	16,886	14,101	83.5
29年3月期	16,773	13,991	83.4

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 14,101百万円 29年3月期 13,991百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		0.00	0.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		0.00			

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	8,593	2.8	128	279.2	172	147.5	116		5.98
通期	16,659	4.4	94		177		68		3.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	21,076,154 株	29年3月期	21,076,154 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	1,667,577 株	29年3月期	1,667,577 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	19,408,577 株	29年3月期1Q	19,408,680 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得情勢に改善傾向が見られ、緩やかな回復状態にあります。米国新政権の政策運営の日本経済への影響懸念や朝鮮半島の情勢不安などによって、景気の先行きは不透明な状況が続いております。個人消費に関しては、緩やかに持ち直しているものの、実質所得の伸び悩みなどで引き続き消費者の低価格志向が続いております。

このような状況のもと当社グループは、お客様からの支持・信頼のより一層の獲得に焦点を当てた諸施策による事業収益の拡大と、経費コントロールなどによる経営効率の向上を進めることで、成長軌道のスタート点である黒字化に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、主に眼鏡小売事業の売上高が堅調に推移したことにより、売上高は4,149百万円（前年同四半期比1.4%増）となり、売上総利益率は0.6ポイント改善しました。一方、経費コントロールの徹底に努めたことにより、販売費及び一般管理費は2,787百万円（前年同四半期比3.9%減）となりました。この結果、営業利益は93百万円（前年同四半期は営業損失83百万円）、経常利益は110百万円（前年同四半期は経常損失63百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は80百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失97百万円）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

なお、前連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、お客様の嗜好、ライフスタイルに合った最適な商品の提供を目指す「アイスタイリング・サービス」を基本として位置づけており、愛眼ブランドの強化に取り組み、お客様が買い求めやすく、楽しんでメガネを選んでいただける店舗運営を目指しております。

商品につきましては、価格志向、品質・性能・デザイン性重視などお客様の様々なニーズに即した品揃えの充実に加え、「目の健康」をテーマとした快適で機能的なレンズやフレームなどの高付加価値商品を増強し、安全性、予防意識に訴えかけることで幅広い潜在ニーズの掘り起こしに取り組んでおります。

売上高に関しては、既存店の客数が前年同四半期比で増加するとともに、品揃えの拡充により販売単価が改善した結果、増収となりました。品種別では、サングラスは、上記施策に加え販売促進の強化により伸びました。また、補聴器は、レンタル販売とアフターサービスが好評を得ており、堅調に推移しております。

店舗に関しては、1店舗を出店、1店舗を閉店し、5店舗で改装を実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は3,955百万円（前年同四半期比1.9%増）、セグメント利益は123百万円（前年同四半期はセグメント損失49百万円）となりました。

[眼鏡卸売事業]

眼鏡卸売事業につきましては、得意先小売店に対する当社オリジナル商品の提案や販売支援を通じた業績向上のバックアップ強化に努めるとともに、新規得意先の開拓に鋭意取り組んでおりますが、売上高は149百万円（前年同四半期比1.5%減）となり、セグメント損失は1百万円（前年同四半期はセグメント利益0百万円）となりました。

[写真館事業]

写真館（名称：愛写館）3店舗を営む写真館事業につきましては、市場競争の激化により厳しい状況が続いておりますが、当第1四半期連結累計期間に横浜本店の改装を実施するとともに、外販活動を強化するなどの売上向上策に取り組んでおります。

この結果、写真館事業における売上高は26百万円（前年同四半期比5.0%増）、セグメント損失は18百万円（前年同四半期はセグメント損失14百万円）となりました。

[海外眼鏡販売事業]

海外眼鏡販売事業につきましては、経営環境が引き続き厳しい状況にあるなか、既存店の採算の改善に努めておりますが、店舗数の減少に伴い売上高は40百万円（前年同四半期比18.6%減）、セグメント損失は3百万円（前年同四半期はセグメント損失0百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は16,886百万円、負債合計は2,784百万円、純資産合計は14,101百万円となりました。前連結会計年度末に比べ負債合計が2百万円増加し、純資産合計が110百万円増加した結果、自己資本比率は83.5%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年5月12日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,901	4,720
受取手形及び売掛金	753	804
商品及び製品	2,251	2,369
原材料及び貯蔵品	29	30
その他	231	261
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	8,163	8,181
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,026	1,050
土地	1,887	1,887
リース資産(純額)	34	30
その他(純額)	79	109
有形固定資産合計	3,028	3,077
無形固定資産		
リース資産	54	50
その他	14	13
無形固定資産合計	69	64
投資その他の資産		
投資有価証券	1,393	1,441
敷金及び保証金	3,468	3,462
その他	649	658
投資その他の資産合計	5,511	5,561
固定資産合計	8,609	8,704
資産合計	16,773	16,886

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	547	618
1年内返済予定の長期借入金	225	210
未払法人税等	185	61
賞与引当金	—	61
その他	1,020	1,042
流動負債合計	1,979	1,994
固定負債		
繰延税金負債	49	63
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	338	339
リース債務	240	212
その他	167	168
固定負債合計	802	790
負債合計	2,781	2,784
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	4,926	5,007
自己株式	△1,050	△1,050
株主資本合計	16,316	16,396
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	116	149
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	29	26
その他の包括利益累計額合計	△2,325	△2,294
純資産合計	13,991	14,101
負債純資産合計	16,773	16,886

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	4,090	4,149
売上原価	1,274	1,269
売上総利益	2,815	2,880
販売費及び一般管理費	2,899	2,787
営業利益又は営業損失(△)	△83	93
営業外収益		
受取利息	4	2
受取配当金	6	6
受取家賃	17	16
その他	12	7
営業外収益合計	40	32
営業外費用		
支払利息	0	0
固定資産除却損	5	3
賃貸費用	11	10
その他	2	0
営業外費用合計	20	14
経常利益又は経常損失(△)	△63	110
特別損失		
投資有価証券評価損	4	—
特別損失合計	4	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△67	110
法人税、住民税及び事業税	28	30
法人税等調整額	1	0
法人税等合計	29	30
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△97	80
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△97	80

（四半期連結包括利益計算書）
（第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△97	80
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△70	32
為替換算調整勘定	△5	△2
その他の包括利益合計	△76	30
四半期包括利益	△173	110
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△173	110
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	3,883	132	25	49	4,090	—	4,090
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	19	—	—	19	△19	—
計	3,883	151	25	49	4,110	△19	4,090
セグメント利益又は損失 (△)	△49	0	△14	△0	△64	△19	△83

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△22百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	3,955	126	26	40	4,149	—	4,149
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	22	—	—	22	△22	—
計	3,955	149	26	40	4,172	△22	4,149
セグメント利益又は損失 (△)	123	△1	△18	△3	100	△7	93

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△11百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、「その他」に含まれていた「眼鏡卸売事業」及び「海外眼鏡販売事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。